

『心を燃やされる主』 ルカの福音書24章13-32節 2019.2.3 聖日礼拝説教より

『…朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着る…神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。』
コリント人への手紙 第一 15章 54、57節

❶エマオの途上(ルカ 24:1～)…キリスト復活の朝、2人の弟子は、復活の知らせを聞いても信じず、失望して都落ち。絶対に甦るはずがないと思込んだ(24:21-24)。人は、気分次第で、すぐ傍の神がわからなくなり、先入観が優先すれば、神の慰めも届かなくなる。『さえぎられて(24:16)』とは、「強く支配され・固執する」の意。人は世の常識に支配され、自分の思いに縛られて、復活も神の臨在も否定する。どんなに聖書の言葉に感心しても、自分と結びつかなければ、ただの「へえ～」。どんなに素晴らしい証も、自分と関係ないと思えば、「なるほど～」で終わる(ヘブル 4:2-3)。

❷心燃やされる主(24:15、25-32)…❶そんな頑固な私たちに主は近づき、同じ道を歩まれ(24:15)、❷信仰を目覚めさせてくださる。『ああ愚かな人たち(24:25)』！あれだけ予告し、復活の証言も状況証拠(空っぽの墓)もあるのに、何故そこまで物分りが悪いのか！❸そして主は聖書を説き明かされる。『説き明かす』とは、「通訳・翻訳・解釈」の意。主は、エルサレムから目的地(エマオ)まで(約 11km・3時間?)を共に歩み、「ご自分について(24:27)」驚くべき神の救いの御計画を彼らがわかるように説明。自宅に着き、イエスが食卓でパンを裂き、祝福して渡した時、やっと目が開かれた。❹彼らは主が、ずっと前から近くで共に歩まれていたと気づいて心熱くされた。弟子たちが通過した3日間(十字架の金曜から復活の日曜まで)を、私たちも各々の境遇で通過する。あなたはまだ、苦悩と絶望の金曜？復活の喜びで涙を拭われる日曜の朝を迎えた？復活して今生きておられる主を知り、主と共に歩み始めた人は、あの嘆きの金曜日が、実はグッドフライデー(最善の金曜)だったと知る！あの絶望の闇を引き裂くように「完了した」と叫ばれた主の声が、実は勝利の雄叫びだった…と知れば、心熱く燃やされる！

★あなたの人生は、今何曜日？いや、苦悩の暗闇の金曜日に、すでに輝く主の勝利と栄光を知りたい！ある時は、涙で目が濡れて主が見えない時、あなたの名を呼び、「もう泣かなくてもよいヨハネ 20:15」と言われ、怯える弟子たちに、「平安あれ！聖霊を受けよ(ヨハネ 20:19-22)」と言われる主の臨在に触れて心燃やされよう！